

マーク S. ライオン

国際会長

2026～2027年度



奉仕は、ライオンズの土台。私たちの本質であり、私たちの活動そのものです。
私たちの根は深く、遠く、広く伸びて、
長く続くつながりを築き、世界に活力を与えています。

私たちが奉仕するたびに、私たちのルーツは
より強く、より深く成長します。

大地に深く息づくルーツ

コネチカット州ブルックフィールドにあるマーク・ライオン国際会長の自宅を囲む全長60メートルの石垣は、ただの壁ではない。彼の人生における多くのこと同様、それはひとつの「物語」だ。

その石垣を構成する一つひとつの石は、周囲の森や野原から、ライオン自身と家族、そして友人たちが集めたもの。石はすべて手作業で、まるでパズルのピースをはめ込むように、何カ月もの時間をかけて丁寧に積み上げられた。「一つひとつ、着実に。長く残るものは、そうやって築いていくんです」。そう彼は微笑む。

忍耐、粘り強さ、そして思いやりの静かな証として、そこに佇む石垣。いつまでも残り、影響を与え続けるものとは、多くの人の手による思いやりの行動の積み重ねによって生まれる—そんなことを思い出させてくれる存在だ。石垣は、コネチカットで受け継がれてきた長い建築の歴史だけでなく、ライオン会長が伝統を重んじる姿勢も反映している。ルーツには大きな意味があるからだ。

ライオンは、夫であり、父であり、ミュージシャンであり、会社の重役であり、リーダーであり、そして長年のライオンズ会員だ。しかし色々な意味で、「普通の人」でもある。「キッチンに立ったり、焚き火を囲んだり、ライオンズの例会に出たり。人といるのが好きなんです」と彼は言う。「ジーンズにTシャツが定番。見たままのわかりやすい人間です」


彼の心の拠りどころはブルックフィールドにある。彼の人生の物語が形づくられてきた場所だ。牧師であったマークの父は、各地を転々とした末、町の教会を再生させるという使命のもと、家族の定住の地としてブルックフィールドを選んだ。

こうしてブルックフィールドにやってきたマーク少年は、ここに根を下ろすことになる。小さな町ならではの温かさや豊かな自然は、腰を据えるのに理想的な環境だった。また、互いに助け合うコミュニティ精神が肌に合った。「コミュニティと奉仕は、自分にとっては呼吸する空気のようなものでした」とライオンは振り返る。

やがて彼は家庭を築き、ブルックフィールドにおけるルーツはさらに深まる。幼い頃からの友達だったリンと結婚し、二人は互いを支え合う最高のサポーターとなった。そして中国から3人の娘を養子として迎えると、夫婦は新たな「コミュニティ」を自ら発足した。娘たちが同じ文化的背景を持つ子どもたちとつながれるよう、養子縁組家庭のための支援グループを立ち上げたのだ。

「自分たちのルーツはここブルックフィールドにあります。心はグローバルです」

家族と地域社会にこれほど深く根を下ろしながら、ライオンの人生は、なおも枝葉を広げていった。

A middle-aged man with short hair and glasses is smiling at the camera. He is wearing a light blue and white checkered button-down shirt, blue jeans, and a black belt with a gold buckle. He has his arms crossed and is standing on a rocky shore next to a body of water. The background is a blurred natural setting with green trees and a bright sky.

— ((—
コミュニティと
奉仕は、
自分にとっては
呼吸する空気の
ようなものでした。

—)) —

奉仕に根ざして、 目的に導かれて

ウォール街で鍛えられ、企業法務の世界で磨かれた若き日のキャリアを通じて、ライオンは任された仕事に対する責任感と、常に最高の結果を出す姿勢を身につけた。中でも敬愛する上司の一人、ルーから学んだ教えは、今でも人生の指針となっている。「上司が自分の名義で世に出すことをためらうような仕事はするな」

ライオンはまた、より大きな変化を起こそうと地方政治にも関わるようになった。仕事も私生活も順風満帆だったはずの彼だが、1996年、昔の同級生とゴルフをしている時に、何かが足りないことに気づく。

ブルックフィールド・ライオンズクラブの新任クラブ会長とラウンドを回らる中で、ライオンズクラブという団体への関心が芽生えた。後日クラブの例会をのぞくと、あることに気づいた。部屋にいるほぼ全員が、地方行政の時代からの顔見知りだったのだ。



— “ —
ルーツは大切。
同時にどう成長して
いくのかも重要です。

— ” —

「でも誰も政治の話なんてしていなかった」と彼は振り返る。「そこでは皆、クラブの活動について話し合う普通のライオンズでした。耳を傾けながら、思いました。『ここが私のいるべき場所だ』と。それで、すぐに入会したんです」。これはライオンが好んで語るエピソードであり、30年に及ぶ彼の奉仕の歩みの始まりを告げる瞬間でもあった。

ライオンにとって奉仕とは、ライオンズという国際的組織の礎であり、規模の大小は関係ない。「ネブラスカ州で缶詰を集める事業も、インドで病院を建設する事業も、同じように重要です」と彼は言う。「大きすぎる奉仕事業も、小さすぎる奉仕事業もありません」

国際会長の立場になっても、マーク・ライオンは故郷とのつながりを失っていない。今も伝統に敬意を払い、信念と楽観主義に立っている。そしてすばらしい「物語」を大切にしている。物語には教訓だけでなく、人を動かす力があるからだ。

彼がコネチカット州の「チャーター・オーク」を愛してやまない理由がここにある。1687年、入植者たちは自治の権利を守るため、コネチカットの勅許状（チャーター）をオークの巨樹の中に隠した。それ以来、チャーター・オークは自由の象徴となった。大木は1856年に倒れたが、忍耐と不屈の精神のシンボルとして、今も人々の心に残り続けている。

「チャーター・オークは、ルーツが大事であること、それと同時に、これからどう成長していくかも同じくらい重要であることを私たちに教えてください」とライオンは語る。この象徴的な木が、私たちが何者であり、なぜ世界にとってのシンボルであるのかを物語っている — そうライオンは信じている。

ライオンズのルーツは深く根ざしている。そして私たちが奉仕する世界に多くを与え、同時に、この世界と深く結びついている。ライオンは、私たちが奉仕に根ざし続けることで、世界をより良い場所にできると信じている。

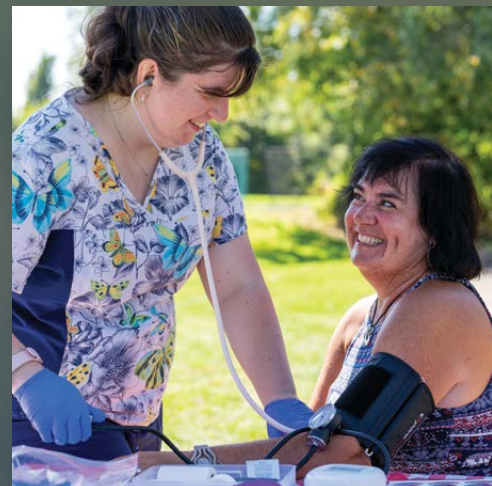


奉仕に根ざして

堂々とそびえ立つオークの木。それは強さと不屈のシンボルです。何事にも動じず、何世代にもわたり人々に勇気を与える揺るぎない象徴として、圧倒的な存在感を放ちます。目的と奉仕に根ざすライオンズは、まさにその大樹のようです。私たちの強さの源は、ただ気高くそびえることにあるのではなく、むしろ、私たちが周囲の世界にもたらず憩いと、恵みと、いのちにあります。

ライオンズクラブは100年以上にわたり、私たちの地域社会とまちを支え、力づけ、奉仕してきました。困難なときに支援を、絶望のときに希望を、最も必要なときに思いやりを届けてきました。奉仕こそが、私たちの組織を育てる土壌です。私たちが寄り添う人生、私たちが変える地域社会、私たちがもたらす影響は、すべてこの土壌の上に実ります。

団結した人たちの底力の象徴となったチャーター・オークのように、今、ライオンズがその真理を体現します。今日もライオンズが誰かに食事を手渡し、どこかで病院を建て、子どもに手を差し伸べています。その一つひとつが、私たちの奉仕が大地に深く、力強く根ざし、未永く続いていくことの証なのです。






Lions Kidsight USA
Community Eye Screening For Children

80% of learning is visual.
Vision problems undetected by the age of 7 can become permanent.
Screening children 6 months to 6 years of age provides early detection.

- ASTIGMATISM: irregularly shaped cornea or lens
- MYOPIA: nearsightedness
- HYPEROPIA: farsightedness
- STRABISMUS: Misalignment of the eyes
- ANISOMETROPIA: unequal refractive power
- ANISOKORIA: pupil size abnormality

Every child deserves to see the world clearly!

SPONSORED BY
BROOKFIELD LIONS CLUB



— (—
アドボカシーとは、
政策改革だけでなく、
存在感のアピールでもあります。
私たちの活動を
広く知ってもらうべきです。
—) —

奉仕で ともに 成長する



奉仕する一瞬一瞬が、私たちのクラブとコミュニティの土台を確かなものにしてくれます。私たちがともに成長し、力を合わせて進んでいくための方法をご紹介します。

ルーツに立ち返る。

奉仕への決意こそが、私たちのアイデンティティです。大小さまざまな奉仕活動に目を向けることで、私たちはコミュニティを、クラブを、そして私たちが共有する絆を強めることができます。奉仕の喜びと、そこから得られる生きがいを満喫しましょう。

種を蒔く。

ライオンは誰でも、自分のクラブを成長させる力を持っています。新しい仲間が増えるたびに、奉仕の幅も、影響力も、可能性も広がります。より多くのことを実現し、地域のためにより大きな力となれるのです。新しいメンバーを招待し、成長の種を蒔きましょう。

リーダーシップを発揮する。

私たちは、奉仕事業を通じてだけでなく、私たちが取り組む問題や当事者のためのアドボカシー活動を通じても、誰かの人生を変えています。思いを共有する地域社会のキーパーソンやパートナーたちと手を取り合うことで、私たちはリーチを広げることができます。今こそ、大きな対話を始め、さらに大きな変化を生み出しましょう。

国際財団と助け合う。

ライオンズクラブ国際財団(LCIF)は単に資金を提供する機関ではなく、思いやりと希望のライフラインです。ライオンズとLCIFの、人生を変える活動を可能にするのはあなた。LCIFを支援し、LCIFの支援を受けましょう。

成功を目指して

地域社会と世界に奉仕するために私たちが団結すれば、独力よりもずっと大きなことを成し遂げられます。成功のキギをいくつかご紹介します。

波紋になろう。

クラブには、地域社会のすみずみにまで広がる変化を生み出す力があります。そのすべては、使命に目覚める一瞬、思いやりの行動一つから始まります。起点は、あなたです。どこまでも広く伝わり、その途上で出会う人の人生を変えていく。そんな波紋になりましょう。



長く続くものを築こう。

よいクラブや、皆が助け合う地域社会は、おのずと生まれるものではありません。そこに心血を注ぐ人々によって、築かれるものです。ですから、精一杯取り組んで、誰もが輝けるクラブや地域社会を築き上げましょう。



つながり続けよう。

ライオンズにおける「つながり」とは、人と人との結びつきです。奉仕する人とも、される人とも。ライオンズでの活動を通じて生まれるつながりを大切に、明るく、楽しく、感謝し合う文化を育みましょう。



枝を広げよう。

私たちの奉仕の使命の担い手として、次世代の仲間を迎え入れることで、組織はよいものになり、その未来はさらに明るくなります。若い世代は、社会に奉仕し、リーダーシップを発揮する準備ができています。それをライオンズやレオとして実現できる機会を与えてください。





We Serve

奉仕に根ざして

そのルーツを、さらにゆるぎないものに。